

Ⅱ 第7次長期5か年研究推進計画の成果と課題

平成16年度～20年度

1 第53回釧路大会

①釧路大会分科会のまとめ

NO	分科会 会場校	研究主題 ～研究副主題～	第7次長計 8課題との関連	研究内容 (要旨)
1	釧路町立 知方学小学校	個性豊かによりよく生きようとする子どもの育成 ～わかる喜びを大切にし、個に応じた算数学習を目指して～	学習指導5・7・8	(1)意欲的に取り組めるようなドリル学習等の作成 (2)個に応じた支援と評価 (3)既習事項を生かした、問題解決的な学習指導過程 (4)個に応じた自力解決の支援 (5)学ぶ楽しさを重視した指導方法
2	厚岸町立 高知小中学校	自ら課題を見つけ、探求し解決しようとする子どもの育成をめざして ～小学校「体育科」、中学校「特別活動」を通して～	学習指導7・8	(1)全校体育に適した学習教材の発掘・選択・検証 (2)評価規準をもとにした支援方法の明確化 (3)年間指導計画の作成【小】 (1)話し合い活動の場面設定・検証 (2)生徒へのかかわり方の工夫【中】
3	浜中町立 榊町小学校	自ら学び、最後までやりぬく子どもの育成 ～地域素材を生かした生活科・社会科の学習を通して～	学習指導6・8	(1)地域素材を生かした生活科・社会科の学習の組織 (2)体験的な学習の位置付けと指導内容や方法の工夫 (3)社会的な事象に対する見方・考え方を育てる支援と評価
4	浜中町立 西円朱別小学校 茶内第一小学校 茶内第三小学校	主体的に活動し、たくましく生きる子どもの育成 ～自己表現力を高め、社会性をはぐくむ集合学習を通して～	学校・学級経営4 学習指導8 (集合学習)	(1)協力教授を生かした指導 (2)集団で学習する場の設定 (3)意欲を高める指導の工夫
5	標茶町立 弥栄小学校	自ら追及し、意欲的に創造する心豊かな子どもの育成 ～弥栄だからできる、子どもが納得する教育活動～	学習指導7・8	(1)国語科における伝え合う力を高める指導の工夫 (2)総合的な学習の時間における弥栄だからできる教育活動の工夫

NO	分科会 会場校	研究主題 ～研究副主題～	第7次長計 8課題との関連	研究内容 (要旨)
6	標茶町立 塘路小中学校	自ら考え、主体的に活動する 児童生徒の育成 ～一人一人の個性を重視しな がら学ぶ力の定着をめざし て～	学校・学級経営4 学習指導5・7	(1)子ども一人一人の興味関心を喚起する問題 設定・問題提示の工夫 (2)課題解決に向けての支援の工夫 (3)多様な考えを出し合う、練り合う場の設定
7	弟子屈町立 昭栄小学校 和琴小学校 美留和小学校 奥春別小学校	自ら学び、たくましく生きる 子どもの育成 ～一人一人が学ぶ楽しさを味 わえる集合学習のあり方を 求めて～	学校・学級経営4 学習指導8 (集合学習)	(1)子どもによる学び合いが生まれる全習・分 習の工夫 (2)一人一人のよさを伸張する協力教授の工夫 (3)多様な考えを出し合う、練り合う場の設定
8	阿寒町立 中徹別小学校	自ら学ぶ力と豊かな心を育て る教育の創造 ～目的意識を持ち、自ら課題 を解決する力を育てる学習 の充実(算数科を通して) ～	学習指導7・8	(1)目的意識を持たせるための授業の工夫 (2)めざす子ども像に近づけるための授業の工 夫 (3)めざす子ども像における児童実態把握のた めの工夫
9	鶴居村立 幌呂小学校	自分の思いを持ち続け、共に 高め合う子どもの育成 ～「伝える・とらえる・深め る」授業を通して～	学習指導7	(1)課題に対する願いや思いを持ち続けさせる 出会いや支援のあり方 (2)お互いに関わり合い高め合う授業の工夫 (3)児童一人一人の願い、思考、つまづきに対 する支援のあり方 (4)複式授業における、直接指導・間接指導時 の学び方の定着と支援のあり方
10	白糠町立 茶路小中学校	自ら考え、主体的に生きる子 どもの育成 ～「自ら考えよう」という意 欲を高める授業の充実～	学習指導7・8	(1)ねらいや目標を明確にした授業の構築 (2)お互いの思いや考えを伝え合う学習場面の 工夫 (3)意欲を高めるための場の設定や方法の工夫

各分科会における成果と課題(要旨)		特徴・特記事項
成 果	課 題	
<p>○算数科における問題解決的な学び方が定着してきた。</p> <p>○ワークシート・ヒントカードを用いることにより、複式授業がスムーズに進むようになった。</p> <p>○評価規準表の作成及びそれを用いての評価ができた。</p> <p>○パソコンの活用により、学習意欲が高まった。</p> <p>○朝学習の習慣が定着し、計算などの習熟度が高まった。</p>	<p>○課題作りと提示の仕方の工夫</p> <p>○学力差がある場合の交流の持ち方</p> <p>○個に応じた支援をする時間の確保</p> <p>○評価規準表作成における配慮事項</p> <p>○ワークシート作成のポイント</p>	算数科
<p>○全校体育を行うことにより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の教師が関わり、多様な見取り・個々への対応・安全確保が得られた。 ・「体育の領域と具体的目標」などの資料作成や教材の発掘等を行うことができた。【小】 <p>○要望や課題を話し合い解決することによって、自信を持つようになり、生徒一人一人の成長につながっている。</p> <p>○発表・練り合うことで、生徒の相互理解が深まっている。【中】</p>	<p>○個々の技能を高める方法</p> <p>○児童の実態に合った評価規準表の作成、支援方法のあり方【小】</p> <p>○生徒の疑問・要望の取り上げ方</p> <p>○到達目標を意識した話し合い活動【中】</p>	体育科【小】 特別活動【中】
<p>○身近な地域素材を位置づけ、実践することにより、社会的な事象に対する興味・関心が高まってきた。</p> <p>○体験的な学習を位置付け、指導内容・方法を工夫することにより、学習意欲の向上が見られるようになった。</p> <p>○児童の実態や評価、支援を見通すことにより、教材や児童に対する教師の理解が深まってきた。</p>	<p>○教師主導から子ども中心の授業へのさらなる転換</p> <p>○発達段階に即した目標の整理</p> <p>○評価規準の改善</p>	生活科・社会科
<p>○各教科に実践を広げたことにより、教材・題材の工夫が見られ、関心・意欲も高まった。</p> <p>○全体構造図を見直すことにより、集合学習のねらいや授業の視点が明確になった。</p> <p>○複数の教師を配置できるため、一人一人の見取りや個に応じた指導が可能になり、深まりのある活動場面が多く見られた。</p>	<p>○全習と分習のつながりの明確化</p> <p>○各校の年間指導計画への明確な位置付け</p> <p>○具体的な指導方法や学習形態の工夫</p> <p>○明確な評価計画の作成</p>	集合学習
<p>○発表場面で声の大きさ・発表態度・言葉遣いを意識するようになり、積極的にコミュニケーションがとれるようになってきた。</p> <p>○総合的な学習の時間の学習の流れが子どもたちに定着し、課題設定においても発想のはばが広がってきた。</p> <p>○ALTと様々な場面で交流の機会を持つことにより、学習だけにとどまらず心の交流ができるようになった。</p>	<p>○様々な発表・会話・話し合い場面の設定</p> <p>○「伝え合う力」の育成を意識した継続的な指導</p> <p>○教科学習における情報収集・活用の仕方</p> <p>○総合的な学習の時間における「伝え合う力」の育成</p>	国語科 総合的な学習の時間

各分科会における成果と課題(要旨)		特徴・特記事項
成 果	課 題	
<p>○子ども一人一人の興味・関心を喚起する問題設定・提示の工夫により、学習の焦点化・意欲化につながった。</p> <p>○課題解決に向けての支援の工夫をすることにより、自力解決が進むようになった。</p> <p>○ホワイトボードなどを利用した発表の工夫を共通的に取り組むことにより、発表の仕方・表現力が高まった。</p>	<p>○課題や教材の工夫</p> <p>○自力解決の基礎となる操作活動の展開</p> <p>○評価方法や評価規準の再吟味</p> <p>○協力し合う学習形態の推進</p>	<p>算数・数学科</p> <p>総合的な学習の時間</p>
<p>○多人数で学習し合うことで、児童の意識の変容・意欲の向上が見られた。</p> <p>○教師間で授業の取り組みについて話し合うことで、分担や学習のねらいが明確になり、日常の指導でも役立っている。</p>	<p>○話し合い活動の活発化</p> <p>○教師間における共通理解の徹底</p> <p>○指導と評価の一体化</p>	<p>集合学習</p>
<p>○課題把握場面で算数的活動・興味関心を揺さぶる活動を取り入れることにより、積極的な姿勢が見られるようになった。</p> <p>○課題解決場面で解決意欲継続のための様々な工夫をとることにより、意欲の向上が図られた。</p> <p>○指導者の工夫を通して、めざすべき子どもの姿をはっきりととらえることができた。</p>	<p>○評価と支援の一体化</p> <p>○実態把握の改善</p>	<p>算数科</p>
<p>○単元を通した「出会い」を設定することで、自分の思いや追求意欲の維持が可能となることが検証された。</p> <p>○単元を通した一人一人の学びに、願い・つまずき・手立てを明記することにより、見通しを持った支援が可能となった。</p> <p>○直接指導時における学び方を工夫することにより、児童の多様な学びが見られ、意欲を持続させながら学習を進めることができた。</p>	<p>○「思い・思いの継続・高め合う」ことの見取り方</p> <p>○話し合いのルールづくりやリーダー養成</p> <p>○指導と評価の一体化</p> <p>○間接時における学び方の定着と有効な見取り方</p>	<p>国語科</p> <p>算数科</p> <p>総合的な学習の時間</p>
<p>○授業の中で、学級内の共感的・受容的態度がよく現れていた。</p> <p>○子どもに相手意識・目的意識を持たせたり、相互評価や教師の評価により、意欲を喚起することができた。【小】</p> <p>○育てたい力を明確にし、目標に向かって子どもたちが主体的に活動していた。</p> <p>○「ふるさとタイム」の学習過程が適切に形成され効果的であった。</p>	<p>○複式の指導案や指導過程の工夫・改善【小】</p> <p>○学び方と支援方法の工夫【中】</p>	<p>国語科</p> <p>総合的な学習の時間</p>

②釧路大会の成果と課題

〈研究成果〉

- | | |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 課題1 | 児童一人一人を大切にす る経営理念に基づく三特性を生かした特色ある教育計画の創造を図る。
○各学校とも、三特性のよさを生かし、地域と連携したふるさと教育に取り組むなど、特色ある学校づくりのための教育計画の充実が図られた。
○特に小中併置校では、小・中教員が相互に乗り入れるなど、併置校としてのよさが生きるような学校経営に努めている。 |
| 課題2 | 郷土の自然・文化・伝統を大切に し、社会の変化に対応する開かれた学校・学級経営の創造を図る。
○総合的な学習の時間を中心に、郷土の自然や産業の学習を行ったり、郷土芸能である太鼓や踊りを継承する活動をしたり、郷土に縁のある外国と交流を行ったりするなど、地域に根ざした教育課程編成のための工夫が見られた。
○地域素材や人材を生かし、町内全部の学校で「ふるさと教育」に取り組むなど、郷土を愛する心や郷土の発展に尽くす心を育てる指導の充実が図られた。 |
| 課題3 | 地域の教育課題を踏まえ 、家庭・地域社会とともに「豊かな心」を育む教育活動の推進を図る。
○福祉施設・養護学校訪問や飼育栽培活動など、家庭や地域社会における豊かな社会体験や自然体験活動を通し、児童生徒に「豊かな心」を育むための教育活動の充実が図られた。 |
| 課題4 | 校内研究の充実と近隣校との共同研究に基づく実践的な研究を推進 し、へき地・複式教育の課題の解明と解決を図る。
○集合学習を通して、近隣校との共同研究体制が構築されるとともに、子どもたちにより大きな集団の中で多くの仲間と学び合える喜びを味わわせることができ、多様なものの見方、考え方を育成することができた。
○各町村の実行委員会体制の中で、平素の町村研究所やへき地複式部会などで行われている共同研究の成果が十分に発揮され、共同研究体制の更なる広がりが見られた。 |
| 課題5 | 児童生徒一人一人の学ぶ意欲を喚起 するとともに、個性を生かし基礎的・基本的な内容を定着させる指導計画と評価の改善・充実を図る。
○日課表の改善やドリル学習の徹底、学び方の改善などにより、教科への興味・関心が高くなり、基礎的・基本的内容の定着を図ることができた。
○単元レベルでのずらしや単位時間ごとの学習過程の工夫、ワークシートやヒントカードを使うことにより複式の授業がスムーズに進められるようになり、個に応じた支援をする時間を確保することができるようになった。 |
| 課題6 | 地域の教育環境を生かし 、家庭・地域社会との連携をより広める学習内容の改善・充実を図る。
○児童生徒の身近にある地域素材を教材化し、積極的に教育課程に位置付けることにより、地域に目が向くようになり、社会的な事象に興味・関心が高まってきた。
○総合的な学習の時間において、児童生徒に育てたい力を明確にし、地域の「ひと・もの・こと・自然」との積極的なつながりをもつことにより、地域から学び、地域に発信していく学習内容の充実が図られた。 |
| 課題7 | 自ら課題を持ち 、学び方を身に付け、友達と共に高め合う問題解決的な学習指導過程の改善・充実を図る。
○ドリル学習や同時間接指導の工夫、具体物や半具体物、図などを効果的に授業に導入することにより、自ら学ぶ力がつき、課題に対して自力解決できるようになってきた。
○ホワイトボードなどを利用した発表やペア学習を工夫することにより、児童生徒が自分と他の人の考えを比べたり、他の人のよさに気づいたり、自分の考えを深めたりすることができ、発表の仕方や表現力が高まってきた。
○導入部だけでなく、単元全体を通して思いを持ち続ける出会いを工夫することにより、児童生徒が自分の思いや課題に対する追求意欲を持ち続けることができるようになってきた。 |
| 課題8 | 学ぶ楽しさや達成感を体感 できるように体験的な学習を取り入れるとともに、個別化や集団化の工夫など指導方法の改善・充実を図る。
○全校体育などを計画的に実施することにより、チームプレーやチームワーク、みんなで一緒に体を動かすことの楽しさを味わうことができ、学習意欲が高まるようになってきた。
○交流学习や合同学習などを行い、複数の教師で指導することにより、多様な見取りができるとともに、個々の児童生徒への対応や安全の確保ができるようになった。
○体験的な学習を意図的に位置付け、指導内容や方法を工夫することにより、学習意欲が高まり、学び方が身に付いてきた。 |

《今後の課題》

学校・学級経営の充実・深化

- 国や北海道の今日的な教育の動向や道へき・複連の長計を踏まえ、生涯学習の視点に立ち、釧路管内のへき地・小規模・複式学級を有する学校で学ぶ児童の持つ課題を解決していくには、学習や生活の実態を適切に受け止めながら学校経営と連動する学級経営、そして評価と一体となった学習指導の教育研究をさらに深めていく必要がある。
- 学校の教育課題を明確にし、より開かれた学校経営を推進するためには、外部評価を積極的に取り入れ、地域の実態と保護者の価値観・意識の変化を考慮した教育課程と指導計画の工夫改善を図っていく必要がある。
- 地域に根ざし、児童に豊かな心を育む教育を推進するためには、教材の宝庫である地域や人材の活用を押し進め、子どもたちとの触れ合いの場を増やすとともに、道徳的実践力を高めるボランティア活動などの充実を図ることが必要である。
- 児童生徒数の減少とそれに伴う教員数の削減で極小規模化が進んでいる現状を踏まえ、児童生徒に新たな時代を生き抜く力を育む教職員の指導力向上と共同研究体制の確立になお一層努めなければならない。

学校・学級経営の充実・深化

- 釧路大会の成果に学び、釧路管内複式各校で児童生徒一人一人に学ぶ意欲を喚起させるとともに、個のよさを生かしながら基礎的・基本的な内容を定着させる指導計画と評価の改善・充実を一層図っていく必要がある。
- 多くの分科会会場校の実践のように地域の教育環境を収集・分析し、それらを生かして実践するなど、管内各学校が家庭や地域社会との連携をより深めながら学習内容の改善・充実を図る必要がある。
- 教科の特質を踏まえて自校の指導類型の見直しを図るとともに、児童生徒自ら課題意識をもち、学び方を身に付け、友達とともに高め合えるような問題解決的な学習指導過程の改善・充実をさらに図る必要がある。
- 極小規模化が進む現状を的確に認識し、児童生徒が学ぶ楽しさや成就感を味わうことができるように体験的な学習を取り入れ、個別化や集団化の工夫など指導方法の一層の改善・充実をさらに図る必要がある。

2 第54回後志大会

①後志大会分科会のまとめ

NO	分科会 会場校	研究主題 ～研究副主題～	第7次長計 8課題との関連	研究内容 (要旨)
1	ニセコ町立 近藤小学校	自ら学び、生き生きと表現する子の育成 ～国語科を通して～	学習指導5・7・8	(1)異内容指導における学習指導過程 (2)間接指導を充実させる手立て (3)基礎・基本を確実に定着させる手立てや評価・支援 (4)豊かに読み取るための手立て (5)豊かな表現力を育成するための表現活動
2	喜茂別町立 鈴川小学校	進んで、思いを表現できる子どもの育成 ～へき地学校の実態に即した国語科の授業を通して～	学校・学級経営4 学習指導5	(1)伝え合う力を育むための基礎・基本作り (2)意欲を引き出し、成果を確かめられる学習活動作り (3)表現の幅を広げる学習活動の工夫 (4)長期的な積み重ねを重視した学習過程の工夫 (5)「思いを伝え合う」場作りの工夫
3	余市町立 栄小学校	確かな語学力を身につけ、相互に伝え合い深め合う子どもの育成 ～話し合い活動を中心とした国語科物語文同内容指導を通して～	学習指導5・8	(1)相互に深め合える学習指導計画の改善・充実 (2)自主的な学びにつながる言語力の定着 (3)一人一人に達成感と意欲を持たせる評価のあり方 (4)同内容指導における支援の改善・充実
4	神恵内村立 神恵内小学校	児童一人ひとりに基礎・基本を確実に定着させる学習指導を目指して ～算数科を軸として～	学習指導5・7	(1)学習指導の定着を見取る方法、場の明確化 (2)評価を支援に生かす、個に応じた指導・指導計画 (3)基礎・基本の確実な習得 (4)意欲的に取り組む課題提示、自力解決が可能な学習過程
5	積丹町立 余別小学校	自ら課題を見つけ・解決し、伝え合う力を培う学習の展開 ～理科・生活科を軸として～	学習指導6・7	(1)課題を見つける姿勢を培う活動の工夫 (2)解決の見通しを持たせる学習展開のあり方 (3)確かな伝え合いを可能にする活動や支援のあり方 (4)子どもが生きる評価活動のあり方

NO	分科会 会場校	研究主題 ～研究副主題～	第7次長計 8課題との関連	研究内容 (要旨)
6	仁木町立 銀山小学校	自ら学び続ける子どもの育成 ～算数科を軸として、共に学 び合い、認め合い、高め合 う学習指導のあり方～	学習指導7	(1)基礎基本となる力を身につけさせる学習の 継続と教材・教具の工夫 (2)主体的な学びのための学習過程と指導・支 援 (3)学ぶ意欲を継続させ、個を伸ばす評価のあ り方
7	赤井川村立 都小学校	心豊かに地域とともに育つ子 どもの育成 ～IT社会を豊かに生きるた めのコミュニケーション能 力の育成を目指して～	学校・学級経営3 学習指導6	(1)ITに親しみ、伝える能力を高める活動の あり方 (2)ITやメディア等を利用し、閉鎖的な思考・ 表現の制約の解決 (3)豊かな自然や環境との関わりから豊かな心 を育むための活動
8	留寿都村立 三の原小学校	生き生きと豊かに伝え合う子 どもの育成 ～一人一人を生かし、学び合 う国語科の授業を目指して ～	学習指導7	(1)「聞く・話す」「書く」技能や態度の育成 (2)話し方や話す場面に応じた適切な言葉の使 い方 (3)思考を深め、学んだ知識を確かなものにす るためのノートの活用 (4)追求意欲を高める課題作りと学習場面の工 夫・改善
9	蘭越町立 昆布小学校	自ら学習に取り組み、互いに 学び合う児童の育成 ～一人一人が意欲を持って学 習に取り組み、よさを認め、 お互いを高め合う学びの場 のあり方～	学習指導7	(1)学習の意欲化を図る教材開発、単元構成の 工夫 (2)自ら学ぶ力を育てる学習過程の工夫 (3)学び合う、交流の場のあり方 (4)共感的、継続的な支援・評価のあり方

各分科会における成果と課題(要旨)		特徴・特記事項
成 果	課 題	
<p>○同時間接指導の設定により、学習状況を把握し、支援・話し合いの場面で活かすことができた。</p> <p>○リーダー学習・問題解決学習などを取り入れ、主体的な学習が展開できた。</p> <p>○書く活動に取り組むことによって、自分の考えを持ち、発表力・表現力が向上した。</p> <p>○交流の時間で、認め合い高め合おうとする力が育ってきた。</p>	<p>○同時展開における教師の関わり</p> <p>○確かな国語力を育成するための方法</p> <p>○書く活動と話し合いとの関連</p> <p>○カードの取り入れ方と、次の学習との関連性</p>	国語科
<p>○学習過程のシステム化を図ることで授業の流れが定着した。</p> <p>○詩の暗唱・漢字練習・短文作り等の指導により、発言量の増加や伝える力の向上が見られた。</p> <p>○修飾語やオノマトペ等の表現に着目し、筆者の意図や登場人物の気持ちに迫れるようになった。</p> <p>○少人数でも全体の活動や他校との交流で、考えに幅を持つことができ、思いを伝えたりする場面が確保できた。</p>	<p>○異学年同内容指導における目標・評価</p> <p>○評価規準の改善</p> <p>○発言・発表内容の改善</p> <p>○伝え合う力の育成</p>	国語科
<p>○言語学習は継続的な取り組みで効果が上がり、音読でも表現読みの力が育ち、物語の読みも深くなってきた。</p> <p>○リーダー学習が定着し、上学年には責任感が生まれ、全体に話し合い活動が活発になった。</p> <p>○個に応じた支援により、個々の「伸び」が感じられるようになり、各担任の特性を生かした支援方法が多様に実践された。</p> <p>○自己評価カードが定着し、学習意欲の向上につながった。</p>	<p>○各学年における具体的な学習の仕方</p> <p>○教師の具体的な支援の方法</p> <p>○リーダーを生かした授業のあり方</p> <p>○同内容指導における評価方法の明確化</p>	国語科物語文同内容指導
<p>○事前テストで一人一人のレディネスや興味を把握し、学習で生かすことができた。</p> <p>○間接指導時における学習の仕方が定着し、見通しを持って学習に取り組めるようになった。</p> <p>○評価を指導に生かすことより、支援の仕方がスムーズにいくようになった。</p>	<p>○事前テスト以外の実態把握の方法</p> <p>○複式学級におけるより良い評価方法</p> <p>○ノート指導やワークシートの取り扱い方</p>	算数科
<p>○理科・生活科の教育課程の見直し、導入や支援の工夫で学習意欲が向上し、「楽しい」と感じる児童が増えている。</p> <p>○観察・実験の習熟を意識した授業の中で、観察力・実験能力・自主性の向上が見られた。</p> <p>○確かな伝え合いの実現のため話し合い活動の実践に取り組み、「聴く」「話す」の基礎的な力がついてきた。</p>	<p>○確かな力を育て学習意欲を高める学習過程</p> <p>○地域の自然や身近な自然事象の活用</p> <p>○確かに伝え合う最良の場の設定</p> <p>○評価活動に視点をあてた実践や検証</p>	理科・生活科

各分科会における成果と課題(要旨)		特徴・特記事項
成 果	課 題	
<p>○計算練習の時間を設定したことで、計算力が身についてきた。</p> <p>○児童の実態を考慮して、教材教具の工夫や支援の準備を行なうことにより、スムーズな授業展開ができた。</p> <p>○ホワイトボードの活用で全体交流が充実した。</p> <p>○集会活動の充実や自己評価を発表し合うことが、互いに認め合う思いやることにつながった。</p>	<p>○計算力など基礎・基本となる力の定着</p> <p>○全体交流、小集団交流の進め方</p> <p>○児童の発表記録の残し方</p>	算数科
<p>○生活科・総合的な学習の時間における柱(テーマ学習・IT・英会話)が定着した。</p> <p>○テレビ会議交流だけでなく、ITを生かしたネット上の交流も活発にできるように育ってきた。</p> <p>○相手を意識したコミュニケーションができるようになってきた。</p>	<p>○IT社会を豊かに生きるためのコミュニケーション能力の育成</p> <p>・正しい判断力の育成</p> <p>・基礎的基本的な学力の向上、定着</p>	生活科、総合的な学習の時間
<p>○少しずつ活発な話し合いが行えるようになってきた。</p> <p>○学習の確認や振り返りノートを活用し、学習の流れを書いていくことが定着し生かされてきている。</p> <p>○教師同士で演習を重ねて質が向上し、問い直しを挿入した「選択性学習過程」を定着させることができた。</p> <p>○子どもたちも課題を自分のものとして受け止め、意欲的に考えることができるようになった。</p>	<p>○「聞く・話す」態度や「書く」技能の向上</p> <p>○話し合いの場面における教師の関わり方</p> <p>○演習の積み重ね、課題の質の向上</p>	国語科
<p>○単元構成や導入・学習過程の工夫により、学習意欲の喚起・意欲の継続につながった。</p> <p>○交流の場を意図的に設定し、共に学ぶ楽しさを実感させることができた。</p> <p>○学習の様子を見取る工夫や自己評価カードの活用で、個に応じた支援が可能となった。</p>	<p>○複式における効果的な学習過程のあり方</p> <p>○それぞれの場面における教師の関わり方</p> <p>○的確な見取りと支援・評価のあり方</p>	算数科

②後志大会の成果と課題

《研究成果》

- 課題1** 児童一人一人を大切にす経営理念に基づく三特性を生かした特色ある教育計画の創造を図る。
○各校とも三特性を十分に生かし、ふるさと学習や集合学習・合同学習などの教師の協業化や学校間交流で特色ある学校づくりのための教育計画の充実が図られた。
- 課題2** 郷土の自然・文化・伝統を大切にし、社会の変化に対応する開かれた学校・学級経営の創造を図る。
○総合的な学習の時間を中心として、郷土の自然や産業の学習、郷土芸能である太鼓・踊りの継承、国際理解など地域に根ざした教育課程の工夫が見られた。
○地域素材や人材を生かし郷土の持つ良さ気づかせ、郷土を愛する心や郷土をより発展させる心を育む指導の充実が図られた。
○各校とも子どもたちの活動を保護者・地域へ公開し、開かれた学校として情報を発信することができた。
- 課題3** 地域の教育課題を踏まえ、家庭・地域社会とともに「豊かな心」を育む教育活動の推進を図る。
○郷土の自然や文化・人材を活用し、人と人との関わり合いを重視したボランティア活動・ふるさと学習など、家庭や地域社会における豊かな社会体験や自然体験により、豊かな心を育むための教育活動の充実が図られた。
- 課題4** 校内研究の充実と近隣校との共同研究に基づく実践的な研究を推進し、へき地・複式教育の課題の解明と解決を図る。
○「後志はひとつ」のもと、管内の複式校はもとより、複式以外の学校からも各町村の研究推進委員・研究協力員として加わり、協力・協業化が図られ共同研究体制が充実された。
○後志の伝統ある複式教育を継承し、「複式学級における学習指導のあり方」など、ともに高め合い指導力の向上を図る校内研修体制が整えられ、研修の改善・充実に努めることができた。
- 課題5** 児童生徒一人一人の学ぶ意欲を喚起するとともに、個性を生かし基礎的・基本的な内容を定着させる指導計画と評価の改善・充実を図る。
○一人一人の児童の主体的な学びの力を高めるために、確かな児童の実態把握をもとに、基礎・基本の確実な習得を図る1単位時間の学習過程が工夫され、子どもたちの生き生きとした学習活動が展開された。
○一人一人の実態把握に基づいた、ヒントカード、操作活動、動作化、教材・教具、表現などの工夫がなされ、個を伸ばす支援の充実が図られた。
- 課題6** 地域の教育環境を生かし、家庭・地域社会との連携をより広める学習内容の改善・充実を図る。
○各学校では、生活科や総合的な学習の時間で地域の素材を積極的に発掘し、その教材化を図りながら、豊かな体験的な活動を通じ、学びへの興味・関心、成就感を育み、学びの力を高める工夫が日常的な活動として積み重ねられた。
○地域の「ひと・もの・こと・自然」と積極的な関わりをもたせ、地域から学び、地域への発信やメディアを通して、管外の学校との交流なども行なわれコミュニケーション能力の育成に努めた。
- 課題7** 自ら課題を持ち、学び方を身に付け、友達と共に高め合う問題解決的な学習指導過程の改善・充実を図る。
○学習リーダーの育成を図ることにより、課題解決の見通しを持つことができるようになったり、間接指導時に子ども自らが学習を進めたり、主体的に問題解決に取り組む姿が見られた。
○ノート、ホワイトボードなどを利用し、子どもたちが考えや意見を伝え合いともに高め合う学習が展開され、課題意識を持ち問題を解決する学習過程の改善・充実が図られた。
- 課題8** 学ぶ楽しさや成就感を体感できるように体験的な学習を取り入れるとともに、個別化や集団化の工夫など指導方法の改善・充実を図る。
○子どもたちが引きつけられる導入、やってみようという体験的な活動や操作活動・表現活動などの工夫により、学ぶ楽しさや成就感を体感させ、個人差・学年差へ配慮した学習が展開された。
○複式特有の「わたり」「ずらし」「同時間接指導」を吟味し、個別に指導したり、集団で話し合わせたり工夫し、指導過程の改善・充実が図られた。

《今後の課題》

学校・学級経営の充実・深化

- 後志管内のへき地・小規模・複式学級を有する学校で学ぶ児童の持つ課題を解決していくには、学習や生活の実態を適切に受け止めながら学校経営と連動する学級経営、そして、評価と一体となった学習指導、すなわち、第7次長計の2領域を一元化した研究を更に深めていく必要がある。
- 学校の教育課題を明確にし、より開かれた学校経営を推進するためには、へき地・小規模・複式校の外部評価システムを確立し、外部評価を積極的に取り入れ、地域の実態と保護者の価値観・意識の変化を考慮した教育課程と指導計画の工夫・改善をより一層図っていく必要がある。
- 地域に根ざし、児童に豊かな心を育む教育を推進するためには、教材の宝庫である地域や人材の活用を推し進め、子どもたちとの触れ合いの場を増やすとともに、学校・学級経営の計画に意図的に位置づけ、道徳的実践力を高める全教育活動との関連を明らかにし、ボランティア活動などの充実を図ることが必要である。
- 全道的な傾向にもある児童生徒の減少とそれに伴う教職員数の削減で極小規模化が進んでいる現状を踏まえ、管内はもとより全道の仲間とともに、児童生徒に新たに生き抜く力を育む教職員の指導力向上と共同研究体制の確立になお一層努めなければならない。

学習指導の充実・深化

- 後志大会の成果に学び、後志管内複式各校で児童生徒一人一人に学ぶ意欲を喚起させるとともに、個のよさを生かしながら基礎的・基本的な内容を定着させる指導計画と評価の改善・充実をより一層図る必要がある。
- 管内の多くの実践から見られるように、地域の教育環境の素材を収集・分析し、それらを生かして実践するなど管内各学校が家庭や地域社会との連携をより深めながら、学習内容の改善・充実をより一層図る必要がある。
- 教科の特質を踏まえて自校の指導類型の見直しを図るとともに、児童生徒自ら課題意識を持ち、学び方を身に付け、友達とともに高め合えるような問題解決的な学習指導過程の改善・充実をより一層図る必要がある。
- 極小規模化が進む現状を的確に認識し、児童生徒が学ぶ楽しさや成就感を味わうことができるように体験的な学習を取り入れ、個別化や集団化の工夫、定型化など指導方法の一層の改善・充実をさらに図る必要がある。

3 第55回根室大会

①根室大会分科会のまとめ

NO	分科会 会場校	研究主題 ～研究副主題～	第7次長計 8課題との関連	研究内容 (要旨)
1	根室市立 昆布盛小学校	自ら進んで表現できる子供の育成を目指して ～まとめる活動を通して 書く力を付け、豊かな表 現力を育てる学習～	学習指導7・8	(1)「伝え合う力」の育成のため「個別学習」「グループ学習」「一斉学習」を一時間の中で効果的に組み合わせる工夫 (2)「自分の思いや考えを話し合う場」の工夫 (3)評価を授業の中に位置づける工夫
2	別海町立 美原小学校	自ら課題を設定し、意欲的に課題を追求する子供をめざして	学習指導8	(1)基礎・基本の定着を図るための指導方法の工夫 (2)個に応じた指導方法の工夫 (3)学習過程や教材の工夫 (4)評価方法の工夫
3	別海町立 光進小中学校	自ら考え、互いに学びあい認めあえる子供の育成 ～子供の気づき、表現を引き出す授業、活動への実践から～	学習指導7	(1)育てたい力を明確にした指導計画の工夫 (2)個に応じた指導の工夫・・・全校活動における個の指導 (3)お互いに学び合う場の設定の工夫
4	中標津町立 俵橋小学校	自分の思いを豊かに伝え合う児童の育成 ～音声言語能力を高めるための指導の工夫～	学習指導1・5・7	(1)音声言語年間指導計画の作成と基礎・基本を明確にした指導過程 (2)音声言語に関する児童の実態調査と聞く、話すに関する指導法 (3)言語環境の整備・充実と音声言語活動の日常化
5	中標津町立 武佐小中学校	自ら学び、自ら拓く、心豊かな子供の育成 ～「見つける・考える・深める」授業を通して～	学習指導7	(1)「見つける喜び」から「わかる喜び」を感じ取る授業作り（導入の工夫と課題の明確化） (2)課題を見つけそれについて「考えを深める」事ができる授業作り・・・ワークシートの工夫 (3)個々の児童がお互いに伝え、わかり合えることができる授業作り・・・話し合いの工夫

NO	分科会 会場校	研究主題 ～研究副主題～	第7次長計 8課題との関連	研究内容 (要旨)
6	中標津町立 養老牛小学校	子供一人一人を見つめ、 それぞれの良さを伸ばす 教育の創造 ～「わかる、できる、考 える」を目指した教育 活 動の研究～	学習指導2・6	(1)異なる子どもが学び合う授業作り (2)「わかる」「できる」を深める教材や授 業法の工夫
7	標津町立 燕別小中学校	基礎基本を身につけ、一 人一人の良さを生かす学 習を目指して ～子ども達が自ら進んで 高め合う学習のあり方 ～	学習指導5・7	(1)指導過程の工夫 ・個人目標の明確化と支援の工夫 ・操作活動や体験的な活動の工夫 ・課題設定の工夫 (2)個に応じた学習指導の充実 ・同時間接指導の活用 ・表現力の伸長と高め合う態度の育 成 ・多様な教育資源の活用 (3)評価と指導の一体化 ・指導過程での見取り
8	羅臼町立 知円別小中学 校	生きる力につながる学力 づくり ～基礎基本の確実な定着 を目指して～	学習指導5	(1)児童生徒に「何のために」「どんな活 動をするのか」を的確にする効果的な発 問・指示の工夫 (2)基礎基本となる事項を明確にした指導計 画の工夫 (3) B規準に至らない児童生徒への手立 ての工夫

各分科会における成果と課題(要旨)		特徴・特記事項
成 果	課 題	
<ul style="list-style-type: none"> ○「ふるさと集会」の発表では子ども達なりの発想を生かした発表になった。 ○国語科の目標や学習方法を詳しく学ぶことができた。 ○根拠を持って自分の考えを発表する態度が身につけてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の基本的なテクニックの研修を積む必要がある。(発問作り、板書等) ○同時間接指導のポイントをきちんととらえるべきである。 ○研究主題に対する達成度を確認すべきである。 	国語科 全校活動
<ul style="list-style-type: none"> ○個に応じた指導を充実させることによって学習に集中して取り組む姿が見られるようになった。 ○課題の工夫、児童の実態に応じた教材教具の活用により学習意欲を高め思考を深めることができた。 ○レディネステストの実施により、児童のつまづきを予想でき、個別指導を効果的に行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○興味関心を高める課題の工夫、教材教具の開発をさらに進める必要がある。 ○個に応じた児童の充実をさらに進める。 ○自己評価を毎時間実施することにより児童の変容をとらえることが大切である。 	算数科
<ul style="list-style-type: none"> ○「生活科」、「総合的な学習の時間」について系統的にまとめることができた。 ○テーマ学習では子ども自身が見通しを持って活動することができていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科等での小中のつながりを明らかにしていく必要がある。 	教科 総合的な学習の時間 全校活動
<ul style="list-style-type: none"> ○音声言語の年間指導計画を作成したことにより発達段階に応じた指導を行うこと事ができた。 ○興味関心のある題材を工夫することで学習意欲が高まり基礎基本の定着が図られた。 ○子どもの実態把握のため調査を行うことで個に応じた指導を効果的に行うことができた。 ○「音読・暗唱テキスト」を作成したことにより話すことについての意識や話す技術が向上した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○音声言語の年間指導計画に評価基準を記載する。 ○自己評価。相互評価および教師による評価の方法を工夫し指導に生かしていくことが必要である。 ○学年別指導において音声言語活動の指導をどのように行うかさらに研究を進める必要がある。 	国語科
<ul style="list-style-type: none"> ○読むことに重点を置いた指導過程を工夫したことにより、物事を深く考え追求する力がついた。 ○課題の明確化や具体化、ワークシートの内容の工夫・充実を図ることにより、間接指導時でも一人一人が意欲を持ち自ら進んで課題に取り組むことができるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな手だてを講じても課題に立ち向かうことができない児童がいる時の支援の充実が必要である。 ○小中連携の観点から研究仮説、研究内容等を見直し、校内研修のさらなる活性化を図る必要がある。 	国語科

各分科会における成果と課題(要旨)		特徴・特記事項
成 果	課 題	
<p>○問題解決的な学習を繰り返すことで子ども達の学ぶ意欲や知識・技能の向上を図ることができた。</p> <p>○子ども同士が主体的に教え合い高め合う授業作りを意識したことで、思考力や判断力を育成することができた。</p>	<p>○一人一人につけさせたい力をより明らかにすることが必要である。</p> <p>○異学年で学び合う学習活動では、各学年の発達段階に応じた目標が大切である。</p>	<p>体育科 総合的な学習の時間</p>
<p>○小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数科の授業の中で1分間計算を行うことで計算能力の向上が見られる。 ・ホワイトボードを用いて自分の考えを発表させることで、他人にわかりやすく伝えるまとめ方を工夫したりすることができるようになった。 <p>○中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題設定・課題把握・解決方法の選択の流れを身につけることによって、生徒自身が主体的に取り組むことができるようになった。 	<p>○小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表については、低学年のうちから自分の考えを絵や図を使いまとめる力を育成し、豊かな表現力を身につけさせていきたい。 <p>○中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中における総合的な学習の時間の連携については、併置校の特性を生かした9年間を見越した学習のつながりを作り上げたい。 	<p>算数科(小) 総合的な学習の時間(中)</p>
<p>○「読み書き計算」の取り組みや性の学習などで小中で一貫した教育活動が充実した。</p> <p>○授業でつけたい力を明確にすることで、発問指示が精査されるなど必要な手だてを工夫することができた。</p> <p>○児童生徒の実態に合わせた学習方法・評価に取り組むことができた。</p>	<p>○子どもが自ら考え学びを進める手だての工夫</p> <p>○実感を伴う活動を重視した指導の工夫</p> <p>○その子ならではの分かり方を重視した授業展開</p>	<p>算数科(小) 道徳(中)</p>

②根室大会の成果と課題

〈研究成果〉

課題1 児童一人一人を大切にす経営理念に基づく三特性を生かした特色ある教育計画の創造を図る。

○三特性の良さを生かし、児童生徒一人一人の学びを育む授業作りを進めながら、地域の教育力・素材とのつながりを持たせた「ふるさと学習」に取り組むなど、学校の特色を生かした教育計画の充実がみられた。

○複式校同士の集合学習や合同学習を教育課程に組み込むことにより、学校・児童生徒・教師間のつながりができ教育活動の充実が図られた。

課題2 郷土の自然・文化・伝統を大切にし、社会の変化に対応する開かれた学校・学級経営の創造を図る。

○郷土の自然環境を「分かり、守る」ことや地域の生活基盤となる「漁業・農業」等の産業を体験・体感する学習、郷土芸能である踊りや太鼓等の文化活動を継承するなど「地域に根ざした教育活動」のさらなる充実が図られた。

○地域素材や地域の人材バンクを活用した「ふるさとを愛する心」や「ふるさとを誇りに思う心」を育む指導の充実が図られた。

○子ども達の学習する姿を地域・保護者へ情報の発信、公開を行い、開かれた学校経営に努めた。

課題3 地域の教育課題を踏まえ、家庭・地域社会とともに「豊かな心」を育む教育活動の推進を図る。

○ふるさとの文化、自然、産業、さらには人と人との関わりを大切にした福祉ボランティア、祖父母との交流、ALTを活用した国際理解学習など、地域の人材や地域の素材の活用を通して豊かな社会体験や自然体験活動を進める中で豊かな心を育むための教育活動の充実が一層図られた。

課題4 校内研究の充実と近隣校との共同研究に基づく実践的な研究を推進し、へき地・複式教育の課題の解明と解決を図る。

○実行委員会を組織し協力・共同化を進める中で根室の複式教育の課題解明に向け各校が共通認識を持ち、共同研究の体制が整えられた。

○近隣校同士で共同研究を行い、多くの仲間と学び合う喜びを分かち合いながら、各校が抱える課題解決につながる研究交流が進み、研修の改善・充実が図られた。

○小中併置校においては、小中合同学習や基礎学力定着など児童・生徒の9年間を見通した指導内容の校内研究が進められ校内研修の充実が図られた。

課題5 児童生徒一人一人の学ぶ意欲を喚起するとともに、個性を生かし基礎的・基本的な内容を定着させる指導計画と評価の改善・充実を図る。

○基礎学力向上のために子どもの実態を明確にしなが全校体制で指導改善に取り組んだことにより「わかる・できる」事の喜びを知り個々の学ぶ意欲が高まった。

○小中併置校において「読み・書き・計算」、「性の学習」等の基礎基本的内容の学習を9年間見通した指導計画を作成したことにより個々の子どもの変容の見取りが共有でき、複眼的な視野で子どもをとらえる指導の充実が図られた。

○レディネステストの取り組みが個々の学習実態の掌握と本時のつぶやきの予想、指導支援の手だての思考の進化に生かされ子に応じた指導の充実が図られた。

課題6 地域の教育環境を生かし、家庭・地域社会との連携をより広める学習内容の改善・充実を図る。

○教育資源である「さけ」を通して、地域の人材を積極的に活用し、採卵、飼育、放流、燻製作りなどの食に至るまでの命の連鎖を学習に組み込むことにより家庭・地域・と連携した学習の改善充実が図られた。

○北海道教育大学釧路校と連携し、「へき地教育実習体験」等を通して教師と学生が共に学び合いながら資質の向上やへき地教育の良さを体験できる取り組みも施行された。

課題7 自ら課題を持ち、学び方を身に付け、友達と共に高め合う問題解決的な学習指導過程の改善・充実を図る

○課題を自分のものにする段階的指導を充実させ、見通しを持ち自ら考える活動や、自力解決する場と時間の確保、さらに作業的、体験的な活動等で学習を多様化し楽しく学ぶ、プロセスをしっかり組み込むことで、個々の学習状況に合わせた課題設定・自力解決を促す指導の工夫がはかれた。

○教材教具の開発と工夫等を授業の中に効果的に組み込むことで、子どもの関心意欲が高まり、自らの考えを深め、学び方を身につけ自力解決できるようになった。

課題8 学ぶ楽しさや成就感を体感できるように体験的な学習を取り入れるとともに、個別化や集団化の工夫など導方法の改善・充実を図る。

○指導することを明確にし児童・生徒の発想や気づきを生かした授業を構築することで、自ら学ぶ喜びや集団の中でお互いに教え、学び、練り合う力が育まれた。

○音声言語活動を学校生活の様々な場面で取り入れることにより音声言語能力が向上したばかりでなく調べる力、広い意味での読解力、書く力などの表現力も高まった。

《今後の課題》

学校・学級経営の充実・深化

- 一人一人の児童生徒の学習・生活の実態を掌握しながら、学校経営と教育課程を連動させ、さらに評価と一体となった学習指導や学級経営に生かされるよう深化・発展させていくことが大切である。
- より開かれた学校経営のために外部評価システムを確立し、地域・保護者の声を積極的に取り入れ、教育課程、指導計画等の工夫・改善を一層進めながら、地域・保護者・学校が一体となって「おらが子どもを育む」「おらが学校を創る」意識の醸成を図り、学校経営への参画・共有を促していく必要がある。
- 地域の教育課題をふまえ、児童・生徒に豊かな心を育むには、地域に存在する多くの「人・もの・自然」などの教育素材・教育力を積極的・意図的に教育課程に導入し、道徳的実践力を高める教育活動へとつなぎながら、児童・生徒と地域・家庭とが共に学び合い、高め合う教育活動への充実を図っていく必要がある。
- 児童数の減少、それに伴う教職員の減少、さらには、学校適正配置計画に基づく学校統合の問題などへき地・複式校に学ぶ児童生徒の現状をふまえ、新たな変化（状況）に対応できるよう、一層の指導力の向上と共同研究の充実を努めなければならない。

学習指導の充実・深化

- 確かな学力を身につけるためには、児童生徒の変容プロセスを細かく記録・分析しながら、発達段階に応じた系統性のあるカリキュラム作りや個に応じたカリキュラム作りを進めていくことが必要である。
- 地域に存在する「人・もの・自然」などの教育素材・教育力を児童生徒の「育てたい力」に連動させ、収集・分析・整理しながら地域と家庭が共に創り出す学習内容への改善・充実をより一層進める必要がある。
- 子どもの多様な学びに応じた問題解決的な学習指導過程の改善・充実のために「教科書で教える」授業作りへの転換や子どもや地域の実態に応じた教材の作成、間接指導時の学習リーダーの育成が必要である。
- 全校活動の実践に当たっては、学年の発達段階を目標・評価に反映させたり、教科との関連を明確にする。また、個別化や集団化の工夫を行い、学ぶ喜びや成就感を一層体感できる指導法の改善・充実を図る必要がある。

4 第56回空知大会

①空知大会分科会のまとめ

NO	分科会 会場校	研究主題 ～研究副主題～	第7次長計 8課題との関連	研究内容 (要旨)
1	夕張市立 夕張小学校	一人ひとりが自ら進んで活動 する子どもの育成 ～算数科の間接指導を 通して～	学習指導5・8	(1)系統性・発展性を踏まえた指導計画の作成 (2)個に応じた適切な指導・支援の工夫 (3)授業の改善
2	夕張市立 幌南小学校	自ら課題を追求し、心豊かに 表現できる子どもを求めて ～国語科における複式学習の あり方～	学習指導7	(1)子どもの願いや思い、学習のねらいを生か した課題づくり (2)問題解決的学習の工夫と展開 (3)豊かな表現の工夫 (4)複式・少人数指導の良さを生かした授業づ くり
3	長沼町立 西長沼小学校	さがし、うけとめ、解決する 子の育成 ～情報機器を活用した算数科 の実践を通して～	学習指導5	(1)学ぶ意欲を高め、学習内容の定着を深める 効果的なICTの活用 (2)主体的に学び合う問題解決的学習の工夫 (3)個に応じた支援と評価の工夫
4	岩見沢市立 メープル小学校	主体的に学び、豊かに言語表 現し、共に学び合う子どもの 育成 ～複式学級の特性を活かした 学習指導の充実を目指して ～	学校・学級経営3 学習指導5・7	(1)児童一人一人に課題解決の見通しを持たせ る支援 (2)豊かな言語表現を身につけさせる工夫 (3)児童相互がいつでも考えの交流ができる環 境づくり
5	三笠市立 幾春別小学校	一人一人が生き生きと活動し、 自ら意欲を持って取り組む子 どもの育成 ～少人数指導の特性を生かし た算数科の授業作り～	学校・学級経営3 学習指導5	(1)児童に興味・関心を持たせる問題提示の工 夫 (2)診断的評価を活用した個に応じた指導の手 立て

NO	分科会 会場校	研究主題 ～研究副主題～	第7次長計 8課題との関連	研究内容 (要旨)
6	月形町立 札比内小学校	豊かな表現力を培い、楽しく 学び合う子どもの育成 ～「確かな学力」を育む授業 づくりを目指して～	学習指導7	(1)自己表現する場の設定のしかた (2)表現意欲を高める問題づくり、教材開発 (3)問題解決への手立てのあり方 (4)学力定着への手立てのあり方
7	美唄市立 西美唄小学校	自ら学ぶ喜びを知る児童の育 成 ～国語科の「話す・聞く」力 を生かしたコミュニケーション能力の育成～	学校・学級経営2 学習指導7・8 (集合学習)	(1)学習指導過程に即した学習の進め方 (2)興味・関心・意欲を引き出す教材や課題の 工夫 (3)「話す・聞く」の基礎・基本的な表現やス キルの定着
8	新十津川町立 花月小学校	自分の思いや願いを大切にし、 生き生きと瞳輝く子どもの育 成 ～一人一人が主人公となる学 習の創造～	学校・学級経営3 学習指導5	(1)思いや願いを生かした価値ある課題づくり の工夫 (2)自らの学習を振り返る活動を通して育む自 己評価能力育成の工夫
9	芦別市立 常磐小学校	自ら考え、学ぶ喜びを実感す る子どもを目指して ～表現力を高める 指導の工夫～	学習指導7	(1)主体的に学習する子を育てる「受動型」「能 動型」の組み合わせ (2)3段階の学習指導過程の工夫 (3)間接指導の充実を図る工夫 (4)表現力を高める工夫
10	深川市立 多度志小学校	自ら学び、自ら考える子ども の育成 ～算数科の基礎・基本の定着 を図る授業研究を通して～	学習指導5・7	(1)基本的な学習過程とリーダーの活用 (2)基本的な学び方の定着と指導・支援の工夫 (3)個に応じた教材教具の工夫

各分科会における成果と課題（要旨）		特徴・特記事項
成 果	課 題	
<ul style="list-style-type: none"> ○指導法の交流で学びの連続性を意識した取り組みができた。 ○指導案に個別の対応を記述することで支援を明確にできた。 ○同時間接指導の実践で一定の成果が見えてきた。 ○体験的活動を導入した授業作りで、その有効性が確認された。 ○多様な指導形態の工夫について、一応の見解がまとまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育活動全体を通じた「5つの力」の育成 ○達成感などを持たせる評価の工夫 ○間接指導時の新たな指導形態 ○意欲化を図る課題のあり方 	算数科
<ul style="list-style-type: none"> ○自力解決能力が身に付き、主体的に学習する姿が見られるようになってきた。 ○友達の考えを自分と比較して聞けるようになり、表現力が身に付いてきた。 ○課題提示を明確にすることで、主体的に学習する態度が定着してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題作りの指導の工夫 ○深まりある意見交流に向けた手立てや場面設定のあり方 ○支援に結びつく評価規準の吟味 ○教育活動全体を通じた表現力の育成 	国語科
<ul style="list-style-type: none"> ○ICTの活用が問題の意味や課題の理解に有効だった。 ○子どもの思考過程に沿った教材やイメージ映像が深い定着につながった。 ○ガイド学習の導入により、間接指導時の主体的な学びに結びつく方向性が見えてきた。 ○自己評価を再支援に活用し、確実な理解へと結びついた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ICTの有効な活用方法の検証と精選 ○計画的な学習訓練によるガイド学習の検証 ○自己評価の活用方法の検証 	算数科
<ul style="list-style-type: none"> ○学習の方法や手順の指導が、間接指導時の主体的な学びに有効に機能するようになった。 ○学習の手順を意識したワークシートにより、児童の理解に役立った。 ○学習の進め方が確立し、主体的に学習が進められるようになってきた。 ○話し方や文章の書き方に表現の高まりが見られるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○考えを持たせるための課題の与え方や支援の仕方の工夫 ○論理的な言語表現の指導 ○自分の思いを表現できる雰囲気作り ○今後予想される一人学年、一人学級での話し合いや協力解決の体験のさせ方 	国語科
<ul style="list-style-type: none"> ○診断的評価の活用により児童の実態に応じた指導や支援の手立てを考えることができた。 ○ミニテストなど形成的評価の活用により児童の理解度に合わせ指導・支援を考えることができた。 ○児童の興味・関心を生かした問題設定や問題提示の工夫により授業実践を積み重ねることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学力テストやレディネステストを診断的テストとして生かす研究 ○一人一人を生かす指導と評価の一体化 ○視聴覚機器の特性を生かした問題提示など、問題把握段階での工夫 	算数科

各分科会における成果と課題(要旨)		特徴・特記事項
成 果	課 題	
<p>○問題(課題)の設定や多様な考え方に対応できる教具の工夫により、意欲的に学ぶ子どもの姿が見られた。</p> <p>○机間指導を機能させることにより、子ども達の達成感を導き出すことができた。</p> <p>○ホワイトボードの活用が、考えを明確にしたり表現活動に有効であった。</p> <p>○教師が子どもの考えをまとめ一般化することで、課題のまとめを効果的にできた。</p>	<p>○表現力の向上に向けた、「伝える」意識と「聴く」態度の育成</p> <p>○学びを定着させる、課題に対するまとめ方の工夫</p> <p>○「発表」から「練り合い」へ高める手立てのあり方</p>	算数科
<p>○児童の実態を明らかにすることで、実態を踏まえた発達段階に応じた系統的な指導を意識的に行なうことができた。</p> <p>○学習リーダーの明確な位置づけによって、子どもの意欲の向上につながった。</p> <p>○「話す・聞く」の技能や態度の高まりが、主体的な学習に結びついてきた。</p> <p>○話し方や聞き方の指導により、相手を意識した姿が見られるようになり、質問や応答する力が育ってきた。</p>	<p>○共通の課題意識をもたせる教材や課題の工夫</p> <p>○話し方・聞き方における教師のねらいを生かした授業作りの工夫</p> <p>○相互評価における、話し方スキルにかかわる評価観点の検討</p> <p>○複式学級における発表練習や表現活動の学習形態の工夫</p>	国語科 総合的な学習
<p>○アンケートの調査結果を児童理解や授業改善に結びつけることができた。</p> <p>○「学びの複線化」により、意欲的に自力解決を図る子どもの姿が見られるようになってきた。</p> <p>○座席表を活用した評価カードにより、短時間で手際よく評価できるようになってきた。</p> <p>○自己評価の有効性を検討することができ、自己評価を学習に位置づけ習慣化することで、授業への意識が高まった。</p>	<p>○アンケート調査の手法の検討</p> <p>○学習場面に応じた「学びの複線化」の研究</p> <p>○学習の5つのステップにおける「見通しの持たせ方」の研究</p> <p>○指導案の形式についての実践・検証</p> <p>○望ましいリーダーの活動のあり方</p>	算数科
<p>○同時間接指導が、個別支援や両学年の流れを読む上で効果的であった。</p> <p>○全校的に継続して取り組んだ「言葉の時間」が、言葉に対する関心の高まりにつながった。</p> <p>○学習課題とワークシートの内容について、その関連性や重要性を確認できた。</p>	<p>○同時間接指導を機能させる授業の進め方の研究</p> <p>○言語表現の向上を目指す言葉の知識を生かす技術と育て方</p> <p>○読み深めの充実、語彙力の向上、習得したことを生かす場の工夫</p>	国語科 生活科 総合的な学習
<p>○リーダー学習により、学習の流れを把握できるようになり、進行がスムーズになった。</p> <p>○座席表による児童の実態把握や実態に合わせたヒントカードの活用により、主体的に学ぶ姿が見られるようになった。</p> <p>○自己評価の結果を子どもも教師もその後の授業に生かせるようになった。</p>	<p>○自分で考え方を見つけることができなかった児童への手立て</p> <p>○ヒントカードの意義と内容の吟味</p> <p>○間接指導につなげる直接指導の充実</p>	算数科

②空知大会の成果と課題

《研究成果》

課題1 児童生徒一人一人を大切にす経営理念に基づく三特性を生かした特色ある教育計画の創造を図る。

○課題1を検証的課題に取り上げた分科会はなかったが、各校とも「生きる力」を育成するための重点を明らかにした全体構造図を「研究紀要」に掲載し実践研究に努めた。また、三特性を生かした特色ある学校づくりに向け、地域に根ざしたふるさと学習や体験学習を教育課程に位置づけ、改善と充実に努めた。

○各学校とも、学校評価の適切な実施に努め、各学校の教育課題や状況を明らかにし、教育課程の改善・充実に努めた。

課題2 郷土の自然・文化・伝統を大切に、社会の変化に対応する開かれた学校・学級経営の創造を図る。

○総合的な学習の時間を中心に、郷土の自然や歴史の良さに気づかせる活動を教育課程に位置づけ、自主性や郷土愛を育む指導の充実が図られた。

○地域素材や人材を積極的に活用し、子どもたちの確かな学力の定着や、豊かな心の育成に成果が現れた。

○ALTなどを活用した国際理解教育の積極的な推進に努める学校が増え、子どもたちの国際感覚を豊かにすることができた。

課題3 地域の教育課題を踏まえ、家庭・地域社会とともに「豊かな心」を育む教育活動の推進を図る。

○各学校とも、子どもたちの教育活動を積極的に保護者・地域に公開し、家庭・地域社会と共に子どもを育てる、信頼される学校づくりに努めた。

○地域の高齢者との触れ合いや福祉施設の訪問などの体験的な活動を通して、人と人との関わり合いを重視した取り組みにより「豊かな心」を育むことができた。

○道徳の時間と各教科・特別活動・総合的な学習の時間などの様々な教育活動との関連を図ると共に、地域・保護者との連携・協力により道徳的実践力の育成に努めることができた。

課題4 校内研究の充実と近隣校との共同研究に基づく実践的な研究を推進し、へき地・複式教育の課題の解明と解決を図る。

○課題4を検証的課題に取り上げた分科会はなかったが、各ブロックごとに会場校を中心とした共同研究体制が確立され、校内研究の深化・充実に結びついた。

○教職員の研究意識の高揚が見られ、研究課題の解明に向けた、計画的・組織的な研究を進めることができた。

課題5 児童生徒一人一人の学ぶ意欲を喚起するとともに、個性を生かし基礎的・基本的な内容を定着させる指導計画と評価の改善・充実を図る。

○児童の実態を適切に把握し、基礎的・基本的な内容を確実に定着させる個に応じた指導と評価の改善・充実が図られた。

○学習内容と具体的評価規準、更に評価の方法を指導案に明記することにより指導と評価の一体化が図られた。

○子どもの「思いや願い」を生かした「自己評価」の充実を図ることにより、子どもたちが自ら評価に関わろうとする意識の高まりが見られた。

○児童に身につけさせる内容を厳選し、指導の重点を意識した年間指導計画の作成や指導案の工夫が見られた。

課題6 地域の教育環境を生かし、家庭・地域社会との連携をより広め深める学習内容の改善・充実を図る。

○課題6を検証的課題に取り上げた分科会はなかったが、各分科会とも総合的な学習の時間を中心に、地域素材の教材化を積極的に図り、学習内容の改善・充実が図られた。

○ゲストティーチャーとして、地域の人材を積極的に活用することにより、地域の良さに気づかせたり、自分から地域に関わろうとする意欲の高揚が図られた。

課題7 自ら課題意識を持ち、学び方を身に付け、友達と共に高め合う問題解決的な学習指導過程の改善・充実を図る。

○事前テストやアンケートを実施することにより、児童の学習実態を的確に把握し、個に応じた支援に役立てることができた。

○学習課題の設定を工夫したり、情報機器を有効に活用したりすることにより、児童の興味・関心・学ぶ意欲を高め、見通しをもって学習する力を育成することができた。

○学習リーダーの役割を明確にすることにより、間接指導時に子どもたちが自ら学習を進めたり、主体的に問題解決に取り組む姿が見られた。

○個に応じた指導を充実させるために同時間接指導を積極的に取り入れたり、同時展開の指導を取り入れたりするなど学習指導過程の工夫・改善に取り組むことができた。

課題8 学ぶ楽しさや達成感を体感できるように体験的な学習を取り入れるとともに、個別化や集団化の工夫など指導方法の改善・充実を図る。

○児童実態の把握に基づく個別の支援計画を指導案に明記することにより、個に応じた明確な支援を行うことができた。

○児童が解決しやすい問題（課題）を設定し、子どもたちの多様な考え方に対応できる教具（具体物、半具体物）を準備することで、達成感を導き出すことができた。

○間接指導の充実を図るために、ワークシートの工夫、学習リーダーの育成、同時間接指導時間の設定など様々な工夫が見られた。

《今後の課題》

学校・学級経営の充実・深化

- 社会的なニーズの高まりにより「確かな学力の向上」を経営や研修の重点に置く学校が増え、「学校・学級経営」分野を検証的課題として取り組む学校が少ない現状である。第7次長計の2分野を一元的な取り組みの中で相互の充実・深化を図る必要がある。
- 学校評価については、ほとんどの学校において自己評価と保護者や児童からのアンケートを実施し、積極的に学校経営に生かしているが、更に開かれた学校評価を推進するために第三者委員会による外部評価システムの確立が急がれる。
- 地域の自然や文化、歴史、産業、人材などを積極的に教育活動に生かし、「郷土を拓く子ども」の育成に努めている。更に豊かな心の育成を図るため、恵まれた豊かな学習フィールドを生かした児童生徒の内面に根ざした道徳的実践力の育成を図る道徳の時間の指導計画の改善・充実に努める必要がある。
- 小規模・複式校の統合の進展や単式校の複式化、複式未経験の教師の増加など、へき地・複式教育を取り巻く環境が目まぐるしく変化する中、児童生徒や学校・地域の実態を踏まえ、近隣校（単式校を含む）との交流や共同研究の一層の促進、更に道研や大学などの研究機関との連携を強化し、教員の資質向上と指導力の向上を図る校内研修の充実が求められる。

学習指導の充実・深化

- 基礎・基本の確実な定着を図るため、目標・指導・評価の一体化による「評価－指導－評価」の一連の取り組みの充実が求められる。また、一単位時間の学習指導場面の中で、自己評価の有効性を高めたり、評価規準を見直したりするなど児童に達成感や成就感を味わわせる学習指導過程と評価の改善が必要である。
- 全ての学習活動の基礎となる言語活動を重視し、言語表現力を更に高めることが重要である。これらに関する研究を一層深め、児童の練り合いを高めるなど言語活動を活発にする指導方法の改善・充実を図る必要がある。
- 間接指導の更なる充実を目指し、子どもたち同士で共に高め合う意欲的で多様な学習活動を推進するため、望ましい学習リーダーの役割や活動について更に研究と共通理解を深める必要がある。
- 基礎学力の定着を図る習得型の学習については、個に応じた指導や指導方法の改善充実によりどの学校においても重点的に取り組んでいるところである。しかし、学んだ知識や技能を日常生活と結びつけて活用を図る応用型の学習について、今後研究を深め指導方法の改善・充実に取り組む必要がある。

5 第57回檜山大会

①檜山大会分科会のまとめ

NO	分科会 会場校	研究主題 ～研究副主題～	第7次長計 8課題との関連	研究内容 (要旨)
1	上ノ国町立 湯ノ岱小学校	自分の考えを持ち表現しようとする子どもの育成 ～国語科の読解力向上をめざした授業展開の工夫～	学習指導7	(1)「読むこと」の系統性の明確化 (2)文章を読み取り、自分の考えを表現することができる授業の工夫 (3)様々な文章を読み、自分の意見を述べたり書いたりする機会の工夫 (4)様々な文章を読む機会充実の場の工夫 (5)語彙を豊かにし、活用する力を高める場の工夫
2	厚沢部町立 館小学校	算数の世界を豊かに楽しみ、主体的な学び方を身につけさせる学習指導	学習指導7・8	(1)課題をつかませる、解決意欲を持たせる、立式させる、答えのメドを立たせるための工夫 (2)操作活動の充実 (3)算数の学習スキルの指導 (4)複式学級の約束の徹底
3	乙部町立 明和小学校	学び方がわかり、進んで学習する子どもをみざして ～読み取る力を伸ばす国語科学習指導の工夫～	学習指導5・7	(1)学び方を身につけさせる目標、指導計画、評価の工夫 (2)正しく「読み取る力」を身につけさせる手立ての工夫 (3)基礎・基本を身につけさせるための個に応じた指導の工夫
4	せたな町立 平田内小学校	一人一人の学びの力を高め、生き生きと学習をすすめる子どもの育成 ～算数科における個に応じた指導・支援の工夫を通して～	学習指導5・7・8	(1)基礎・基本の定着をめざした指導計画の作成 ・レディネステスト ・指導計画や手立ての個別化 (2)自ら生き生きと学ぶ力をつける指導方法の工夫。 ・学習課題や問題作成、提示の工夫 ・児童の実態に合わせた学習シート

NO	分科会 会場校	研究主題 ～研究副主題～	第7次長計 8課題との関連	研究内容 (要旨)
5	せたな町立 玉川小学校	学び合い、生き生きと表現 する子どもを求めて ～「話す・聞く・書く・読 む」力を生かしたコミュニ ケーション能力と活 用～	学習指導5・7	(1)指導計画の工夫・改善 (2)コミュニケーション能力の育成 (3)コミュニケーション能力の活用
6	せたな町立 馬場川小学校 せたな町立 島歌小学校	思いを伝え合い、豊かに表 現できる子どもの育成 ～自ら進んで表現する力を 伸ばす指導のあり方(国 語科・音楽科)～	学校・学級経営4 学習指導5・7 (集合学習)	(1)思いや考えを伝え合う力をはぐくむ ための話し合いの場づくり (2)学習効果を高めるための集合学習の 推進 (3)単式授業による充実した学習活動の 保障
7	今金町立 種川小学校	すすんで学ぶ子どもを目ざ して ～「量と測定」「図形」を 中心とした算数科指導を 通して～	学習指導7	(1)子どもの問題解決能力を高める手立 ての工夫 (2)量感や技能、考える力を育むための 算数的活動の工夫～「量と測定」「図 形」領域を中心として～

各分科会における成果と課題(要旨)		特徴・特記事項
成 果	課 題	
<ul style="list-style-type: none"> ○目的をもって文章を読ませることにより、正しく読み取り、自分の考えを根拠をもって表現することが見られるようになった。 ○自分の考えに自信を持ち、積極的に発表しようとすることが増えてきた。 ○本への興味・関心が高まってきた。 ○ことわざや慣用句を学んだあとに、実際に使うことが多くなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○間接指導時のつまずきに対する手立てをさらに検討する必要がある。 ○学年に応じて、言葉を調べたり楽しんだりする資料を、幅広く準備していく必要がある。 	国語科
<ul style="list-style-type: none"> ○「数と計算」領域では、1年生の数の導入から6年生の分数のわり算に至るまで、タイルや折り紙など面積図を用いるやり方で児童の理解を深めた。 ○学習リーダーの育成では、一定の成果がみられ、指導に必要な観点を整理する事ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○分数の導入については、効果的な指導方法の究明が手つかずで課題として残っている。 ○「数と計算」以外の領域についても、効果的な指導方法の究明が今後の課題となっている。 	算数科
<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決的な学習では、課題に対する見通しを持たせる場面が重要であり「読み取りカード」は有効であった。 ○「ワークシート」や「線引き」の活用は有効であった。 ○児童の実態及び、個に応じた指導の手立てを明確にしたことにより、確実に読む力が増した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題提示の工夫。 ○間接指導時の学習リーダーの育成。 ○物語文、説明文それぞれの「線引き」のパターン化。 	国語科
<ul style="list-style-type: none"> ○レディネステストの指導計画への活用方法の明確化。 ○個に応じたドリル学習による基礎・基本の定着。 ○学習の見通しを持たせるための学習シート活用方法の明確化。 ○自力解決のための「おたすけアイテム」の活用。 ○「おたすけアイテム」活用による友達どうしの交流、全体発表の意欲化。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どものつまずきの詳細な理解のためのレディネステストの改善。 ○個の学習状況に即した「おたすけアイテム」の工夫。 ○子どもの嗜好や実態に応じた課題提示の工夫。 ○間接指導時の学習リーダーの育成。 ○自己評価・相互評価の能力の育成。 	算数科

各分科会における成果と課題(要旨)		特徴・特記事項
成 果	課 題	
<ul style="list-style-type: none"> ○単元の指導計画を意図的にずらすことにより、1単位時間のずらしと渡りに軽重をつけた指導ができるようになった。 ○授業や日常生活の中で、黙ってしまう場面や単語のみで回答をすませることが減少した。 ○話し合いの道筋が決まっていることについては、積極的に交流できるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元を通して指導と評価を深く見通した単元観の必要性。 ○相手に伝わったかどうかの「評価意識」の育成。 ○意見交流の日常化。 	国語科
<ul style="list-style-type: none"> ○集合学習を通して、児童は堂々と発表できるようになったり、多様な意見が出てくるようになったりした。 ○集合学習で、ともに学習する環境づくりの充実に努めたため、児童が生き生きと学習活動をすることができた。 ○国語の学年別学習では、児童の理解が深まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1～4年の国語は4つの学年が一緒に勉強する上で、目標や内容が発達段階に妥当なのか疑問も出てきた。 ○国語は両校の年間指導計画との関連や整合性について吟味し、整理する必要がある。 	国語科 集合学習
<ul style="list-style-type: none"> ○五感を使った算数的活動を「つかむ場面」に用いることで、子どもは解決意欲を高めるとともに、内的思考が働き、取り組みの見通しを持てることが分かった。 ○具体物を操作することで思考が深まるとともに、友達同士での練り合いの場面において、自分の考えを筋道だてて説明することができるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループ学習では一人で考える機会が減少し、自分の考えを持って意見交換する力の不足や、他者に依存してしまう傾向が見られた。 ○児童は、学習を通しての自分の変化を実感できないので、「自分の取り組みの結果を確かめたり、振り返る手立て」の工夫が必要である。 	算数科

② 檜山大会の成果と課題

〈研究成果〉

課題1 児童生徒一人一人を大切にす経営理念に基づく三特性を生かした特色ある教育計画の創造を図る。

○課題として取り上げた分科会はなかったが、大会への取り組みを通して、一つ一つの授業を支える特色ある教育計画の作成についての重要性を改めて認識する機会となった。また、深い児童理解や一人一人へのていねいなかかわりなど、特性を強みとして生かす学校・学級経営を目指す教育実践が数多く見られた。

課題2 郷土の自然・文化・伝統を大切にす、社会の変化に対応する開かれた学校・学級経営の創造を図る。

○課題として取り上げた分科会はなかったが、へき地小規模校だからできる保護者・地域への説明と評価の体制づくりに各校が取り組んでいるところである。

課題3 地域の教育課題を踏まえ、家庭・地域社会とともに「豊かな心」を育む教育活動の推進を図る。

- 意図的、計画的な集合学習の継続と深化により、山村地区に暮らす子どもたちと海浜地区に暮らす子どもたちが、お互いを理解し合い、高め合う関係性をつくることができるなど交流が図られた。
- 集合学習として、国語科（「話す・聞く」領域）において単式の学年別指導を行い、自己表現に対する自信を持ったり、多様な意見が交わされるようになった。
- 共に学習するための環境づくりの充実が、児童の学習意欲向上につながった。

課題4 校内研究の充実と近隣校との共同研究に基づく実践的な研究を推進し、へき地・複式教育の課題の解明と解決を図る。

- 課題に取り上げた分科会はなかったが、各ブロックごとに会場校を中心とした指導案検討会などを実施した結果、各町複式連盟の研究の活性化につながった。
- 教職員の研究意識の高揚が見られ、研究課題の解明に向けた、計画的・組織的な研究を進めることができた。

課題5 児童生徒一人一人の学ぶ意欲を喚起するとともに、個性を生かし基礎的・基本的な内容を定着させる指導計画と評価の改善・充実を図る。

- レディネステスト等によって児童の実態を的確に把握し、個に応じた指導計画を立てることにより、一人一人の理解度に合わせた学習が可能となり、基礎・基本の定着や学習意欲の向上が見られた。
- 単元の指導計画を意図的にずらすことによって、一単位時間のずらしと渡りに軽重をつけた指導ができるようになり、指導の徹底が図られた。
- 図や具体物など、子どもたちの視覚に働きかける教材や教具の工夫により、興味・関心や学習意欲を高める実践が多く見られた。

課題6 地域の教育環境を生かし、家庭・地域社会との連携をより広め深める学習内容の改善・充実を図る。

○課題として取り上げた分科会はなかったが、特別活動や総合的な学習の時間を通して、各学校が特色ある教育活動を目指し、地域素材や地域人材を生かした教材化や単元開発に取り組んでいる。

課題7 自ら課題意識を持ち、学び方を身に付け、友達と共に高め合う問題解決的な学習指導過程の改善・充実を図る。

- 自分の考えを整理したり、まとめたりするためのワークシートなどの具体的な手だてを明確に位置づけたことにより、学び方を習得し、学習の見通しをもって解決に向かおうとする姿勢ができてきた。
- 互いの考えを交流したり、話し合いの筋道を明確にしたりする場を意図的に設定することで、それぞれの違いや共通点を見つけ出し、話し合いの活性化につなげるような指導をすることができた。
- 国語科の研究に取り組んだ学校では、文章の読解を通して言語に対する意識を高める具体的な活動を、算数科の研究に取り組んだ学校では、算数的な活動や具体物の操作などを取り入れたことで問題解決的な学習のプロセスを明確にすることができた。

課題8 学ぶ楽しさや成就感を体感できるように体験的な学習を取り入れるとともに、個別化や集団化の工夫など指導方法の改善・充実を図る。

- 集合学習による表現活動は、人数の少なさをカバーし、お互いの発表を聴き合ったり自信をもって伝えようとする力の育成につながった。
- 具体物の操作や五感を使った学習活動、子どもが課題をイメージしやすくするための図式化など、子どもの側に立った指導法の工夫と改善により、自ら進んで学習に取り組もうとする姿勢が育ちつつある。

《今後の課題》

学校・学級経営の充実・深化

- 個の理解度に応じた学習支援を行うことにより、自力解決への意欲向上やグループでの話し合いの活性化につながった。
- 少子高齢化が進み、限界集落と呼ばれるような地域も出てきている中で、改めて地域との連携を考え直し、教育課題を明確にしていく必要がある。
- 極小規模校の増加などにより、教職員数が少ない中での新学習指導要領への移行から完全実施に向けての教育課程編成を進めていくためには、近隣校との共同研究体制などの具体策が必要である。
- 「ゆとり」ある教育活動の中で「豊かな心」を育てるという学校・学級経営分野の目標は、「ゆとり」か「詰め込み」かという短絡的で二者択一的な発想で言われる「ゆとり」とは違うことを認識し、学校の教育活動全体を通して子どもたちの豊かな心が育まれるような学校・学級経営を目指したい。

学習指導の充実・深化

- 少人数だからこそできるきめ細やかでいねいな児童理解に基づいた指導は、深い教材研究と両輪であることを改めて認識し、今後も教師の授業力向上に向けた管内複式教育研究連盟としての共同的な取り組みが重要である。
- 考えの違いを伝え合いながら、練り合い深め合えるような少人数での話し合いは、意図的・計画的な指導が必要であり、コミュニケーション能力の育成について具体的な方策を考えていかなければならない。
- 自己評価や相互評価など、自らを振り返ったり、相手のよさを認めたりすることができる評価意識を培うような日常実践を継続していきたい。
- 「確かな学力」や「基礎・基本」は、習得型の学習だけで身に付くものではないという共通認識をもち、豊富な地域素材を積極的に活用し、活用型、探究型の学習を工夫していくことが重要である。